

アルプス一万尺

理事長 永井 俊彦



『アルプス一万尺、小檜の上でアルペン踊りを…』と、いう歌がある。この元歌は“ヤンキードゥードゥル (Yankee Doodle)” というアメリカ独立戦争時の愛国歌であったそうだ。

歌詞にある小檜であるが、檜ヶ岳(3,180m)の岩峰の西に接する岩峰である。この小檜は3,030mで $(3,030\text{m} \div 0.303)$ ちょうど“一万尺”となる。

山の標高を“m”でなく“尺”で言っていたのはいつ頃までなのであろうか。小島烏水は明治35年8月の登山紀行“日本アルプス”(岩波文庫1992)に檜ヶ岳の標高を一万一千六百五十二尺(3,530m)と述べている。そして、檜ヶ岳の方が穂高岳(3,190m)より100尺高いと記載している。これを見ると市販の地図に関しては当時、まだ尺貫法が使われていたのであろう。

メートルは明治24年(1891)の度量衡法で尺貫法と併用する形で導入された。伊能忠敬以降、本格的な地図作製は陸地測量部(明治21年・1888)の発足による。この陸地測量部の北アルプス測量登山は、明治26年“御岳(一等三角点)”に始まり映画“剣岳 点の記”にもなった剣岳(四等三角点)の測量登山が行われた明治40年まで続いた。檜ヶ岳(二等三角点)の測量登山は小島烏水が登った同じ明治35年に行われている。だから、関係者以外は正確な標高を知らなかったのである。

この陸地測量部の測量以降、日本の地図は全てメートル記載となった。政府は大正10年(1921)に度量衡法改正で尺貫法の使用を禁止したが、根強い抵抗もあり昭和34年にはメートル法完全実施記念切手まで発行したが、完全実施に至ったのは昭和41年(1966)までずれ込んだそうだ。この“アルプス一万尺”は昭和37年8月にNHKの“みんなの歌”で放送されたそうだが、この時期に放送したのは何か意図があったのだろうか。

今はデパートなど酒売り場に行くと全てml、L表示である。私も時々、居酒屋に行くが『日本酒〇〇360ml、お猪口3つ』と、注文する客の声を未だ聴いたことがない。来年は元号も変わり、昭和はますます遠くなる。『日本酒〇〇2合、お猪口3つ』という声はいつ頃まで聞かれるのだろうか……。